



鎮守堂 広島市指定被爆建物

●鎮守堂は明治時代に、住職・四鬼神(よきじん)和尚が三瀧寺の安寧のため建てたもの。
●天神さま(菅原道真公)と山神さまがまつられている。「天神堂」とも呼ばれ、受験生のお参りも多く、絵馬の奉納所にもなっている。



御神体の一枚岩



本堂

●本堂の建立年代は不明。鎌倉時代に銀山城主・武田信守が本堂を修築した記録が残っている。
●明治初年、明禪(みょうぜん)僧正によって改築されたが、大正年間の再三に渡る水害と原爆の被害で半壊。昭和49(1974)年、平安時代の建築様式の粋を集め、檜(ひのき)造・寄棟瓦葺(よせむねかわらぶき)で再建。
●堂内には、本尊の「聖観音像」をはじめ多くの仏像が安置されている。



香炉の飾り



三鬼権現堂 広島市指定被爆建物

●明治時代、鞍馬寺で修行した四鬼神和尚が弥山と三瀧寺の住職を兼務。弥山に三鬼堂、三瀧寺に三鬼権現堂を建立した。
●三鬼大権現は宮島弥山の守護神。弘法大師空海が弥山を開いた時に迎えた鬼神である。
●鎮守堂近くにある天狗杉は、三鬼権現の眷属(けんぞく)である天狗たちが停まると言われている。



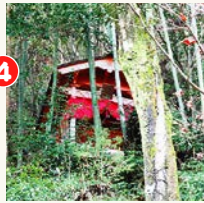
中からの風景



鳥天狗



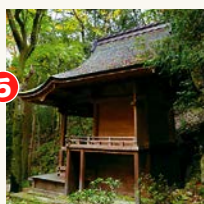
大天狗



稲荷社 広島市指定被爆建物

●稲荷社は六角堂前参道から見上げた先にある。
●稲荷神をまつる神社を「稲荷神社」という。赤い鳥居と白い狐がシンボル。空海が京都の東寺を建てるときに、伏見稲荷から材木の提供を受けた。真言宗のお寺では材木の調達などがうまくいくようにと必ず、稲荷神をまつてある。

●登れません



龍神堂

●三瀧寺は正式な名称を「龍泉山・三瀧寺」と言い、昔から龍神をまつっている。以前は龍神堂があったが、災害で失い、長く龍神は旧本堂にまつられていた。
●平成21(2009)年に開創1200年記念事業として建築。本堂に保存されていた古い龍の彫刻が正面に飾られている。



三瀧寺

三瀧散策マップ

境内編



Mitaki-dera Temple
≒ 809~

三瀧寺は平安時代初期(809年)空海(弘法大師)が観音様を表す梵字を石に刻み岩窟に安置したことに始まると伝えられている



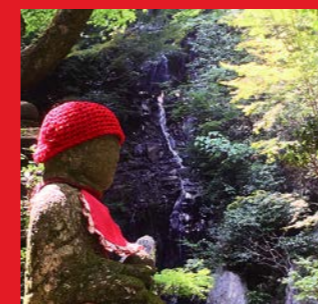
多宝塔の装飾



アウシュヴィッツのランタン



鎮守堂の親子狛犬



梵音の滝



本堂の金剛力士像

企画: 三瀧歴史学習会 三瀧公民館活動グループ

発行: 西区役所地域起こし推進課

733-8530
広島市西区福島町2丁目2-1
電話: 082-532-0927

編集・制作: edit CUE 印刷: アドブックス (第2刷 R4.3)

■ボランティアガイドの受付
西区役所地域起こし推進課
電話: 082-532-0927



想親観音堂 広島市指定被爆建物

●最初の観音堂は江戸時代に建てられ、明治初期に再建。原爆で破損したが昭和30年に改築された。
●石仏は十一面観音。三体のうち、中央が古いもの。
●江戸時代に民衆の間でロズさまれた「広島心願成就八景(ひろしましんがんじゅうじゅうはっけい)」に亡き母を思い、三瀧観音にお札を納めるという節がある。



想親観音堂



空海の像

各宗祖師の庭

●向かって右から、親鸞聖人像(浄土真宗)・道元禅師像(曹洞宗)・日蓮上人像(日蓮宗)・弘法大師空海像(真言宗)。



各宗祖師の像

「さいかち句碑」

●さいかち俳句会が被爆40周年を機に原爆犠牲者の鎮魂と世界平和を祈念して建立したもの。



さいかち句碑

「原爆慰霊句碑」

●原爆三十三回忌にちなみ、広島俳句協会が広島県下の故人を含む作家による原爆句を募集し、33句を選び、祈りを込め、この碑を建立。



原爆慰霊句碑

「アウシュヴィッツ供養平和宝塔」

●第二次世界大戦中に、ポーランドのアウシュヴィッツでナチズムのホロコーストの犠牲になった人々の遺骨が安置されている。
●頭上のランタンはアウシュヴィッツ収容所(世界文化遺産)の象徴であり、遺骨が入れられていた。



平和宝塔

「原爆供養合同歌碑」

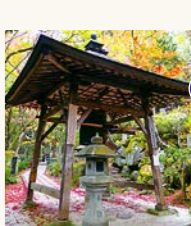
●原爆三十三回忌にちなみ被爆歌人有志が集まり、原爆体験の短歌33首を選んで世界平和への祈りを込め、この地に建立・供養した。



原爆供養合同歌碑

鐘楼 広島市指定被爆建物

●第二次世界大戦中、鐘は戦争で供出された。戦後すぐに現在の鐘を铸造したが、当時は材料の品質が悪くヒビが入っている。ヒビも歴史的な意味があるので再铸造せず現在に至っている。



鐘楼

多宝塔 広島県重要文化財

●室町時代末期に和歌山の広八幡神社に建立された。昭和26(1951)年に原爆犠牲者の供養のため、三瀧寺に移築される。
●安置されている「木造阿彌陀如来坐像」は平安時代末期に河内の国日野村の人々によって彫像されたものと言われる。国の重要文化財。毎年11月に平和を祈る法要が営まれている。



多宝塔